

とまた 苫田ダム建設事業

受賞機関 国土交通省中国地方整備局苫田ダム工事事務所

事業の概要

岡山県東部を貫流する吉井川は、過去幾多の自然災害や渇水に悩まされてきたことから、昭和47年5月から「吉井川総合開発調査事務所」を開設し、ダムの規模や貯水池の調査、洪水調節等の計画、設計を行い、昭和56年12月には「苫田ダムの建設に関する基本計画」が告示され、ダム建設工事に着手した。

その後、平成8年「建設事業審議委員会」の答申を受け、かんがい用水や発電の参入等の改定を行い、重力式コンクリートダム形式の堤高74m、堤頂長225m、総貯水容量8千4百10万 m^3 の事業計画を定めた。



平成13年に「定礎式」を行い、平成16年5月から試験湛水を開始、平成16年11月28日に苫田ダムの完成式が奥津町（現岡山県苫田郡鏡野町）の苫田ダムにおいて行った。

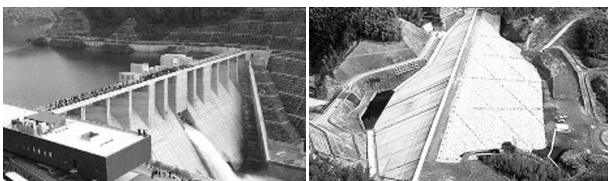
式には、国、県、町の関係者、水没によって移転された元地権者ら約700人が出席し、国土交通大臣の挨拶に続き石井岡山県知事らの祝辞の後、くす玉割りや記念放流を行って完成を祝った。

（苫田ダム）

- 形 式：重力式コンクリートダム
- 堤 高：74m
- 堤 体 積：約30万 m^3
- 総貯水容量：84,100千 m^3
- 有効貯水容量：78,100千 m^3

（苫田鞍部ダム）

- 形 式：CFRD（コンクリートフェイスングロック
フィルダム）
- 堤 高：28.5m
- 堤 体 積：約18万 m^3



苫田ダム

苫田鞍部ダム

ダムの特徴

グランドデザインを採用

非常用洪水吐にラビンス型自由越流頂を採用
水位維持放流設備に引張ラジアルゲートを採用



久田大橋(円弧)を描く

苫田大橋(X(エックス)を描く



ラビンス型自由越流頂

引張ラジアルゲート

鞍部ダムにCFRD工法を採用

苫田ダムの目的

- ・洪水調節
ダム地点の計画高水流量2,700 m^3 /秒のうち、2,150 m^3 /秒の洪水調節を行い、ダム下流の洪水被害の軽減を図る。
- ・流水の正常な機能の維持
下流の既得用水の補給など、流水の正常な機能の維持を図る。
- ・かんがい用水
吉井川沿岸の約243haの農地に対するかんがい用水の補給を行った。
- ・上水道用水
新たに上水道用水として、400,000 m^3 /日を供給する。
- ・工業用水
新たに工業用水として、8,500 m^3 /日を供給する。
- ・発電
新たに建設された発電所において、ダムの放流水の落差を利用して最大出力4,600kwの発電を行った。

おわりに

苫田ダムの事業は、構想以来半世紀という長い時間を要して完成を迎えた。長い時間とともに、多くの人々の並々ならぬ尽力の賜と深く感謝申し上げますところでございます。

苫田ダムが当初の目的どおりに、地域の安全や河川環境の保全、さらには、多機能施設として水源地域の健全な発展に寄与することを願っている。

賛助会員 アイサワ工業(株)、(株)ウエスコ、大林道路(株)、(株)奥村組、オリエンタル建設(株)、川田建設(株)、極東工業(株)、(株)建設技術研究所、(株)鴻池組、佐藤工業(株)、世紀東急工業(株)、(株)銭高組、大成建設(株)、大成ロテック(株)、(株)東芝、東洋建設(株)、日本鋼弦コンクリート(株)、(株)日本ビ・エス、(株)ピーエス三菱、復建調査設計(株)